

- ・ Mist Florentio(ミスト・フィレンティオ)
- ・ 138 歳、Elf の女性
- ・ Druid
- ・ 165cm、52kg、orange の髪と sky-blue の瞳

生い立ち

生まれたときから Elf にしては珍しい容姿をしていた。

これといって不便はなかったのだが、好奇心旺盛な性格からか、自らの容姿の源流を探ろうと 80 歳にして村を捨てて旅に出る。無一文だったことから旅立ち早々餓死しかけるが、狼の群れに助けられ生き延び、Druid になることを決意。

人間の町に出た後 20 年かけて、宿屋でバイトをしながら勉強をする (何で 20 年もかかったのかって？ そりゃあ、私は宿の看板娘だったからねえ、いろいろ忙しかったのよ。夜のほうも……、ね。

本人談)

Druid になった後、しばらくは森にこもって修行に励む。その際に初代 Mistral と出会いパートナーとするが半年ほどで死亡してしまう。Mistral の死から立ち直るのに時間はかかったものの、今は 2 代目 Mistral をパートナーに迎え、旅を続けている。

帝国 の存在自体を疎んではないが、やややりすぎな感がある、とは思っている。

性格

好奇心旺盛な性格は今も変わっていない。

自然について知っていくうちに、その中に一定の秩序を見出す。また、善悪による判断は無意味だとも考えるようになった。

宿屋でのバイトによる影響からか、表向きの性格はいわゆる「阿婆擦れ」である。それもかなりの。口が悪かったり、ちょっと手が早かったりするが、人嫌いではなく、ある程度周囲を見て対応することができる。

Mistral はかなり好戦的である。Mist のしつけが十分でなかったころは命令などまったく聞かず突撃していく猪突猛進な部分があった。

今はそれほどでもないが属性がやや hungry よりで、噛み付き、引きちぎった敵の肉をすぐに飲み込んでしまう悪い癖がある。(今はお役目から解放されて Whity Forest にて生活中)

Dire Bat の Haze もまた気性が荒く、昆虫類は戦闘中でも好んで食する。また、Mistral とは犬猿の仲。

近況

第一回 ~ Mist, Twenty Chains に入る ~

オープンカフェでまったりしていたところ、帝国 兵と冒険者の戦闘が始まった。Mistral が非常に乗り気だったこともありその戦闘に参加。その後成り行きに任せ Twenty Chains に入る。手始めということで、アジトから北西に行ったところの探索を命じられ、洞窟を発見。スケルトンやドラゴンとの戦闘では Mistral が獅子奮迅の活躍 (Mist はそう受け取っている) だったが、ゴーレムに対しては無力だった。帝国 兵とやり合ってしまったことから、帝国 に対するレジスタンス活動をやろうと決意。しかし、帝国 の暴走を止めるつもりはあっても、帝国 を転覆させるつもりはない。なお、コメリカ王国 の解放には心から賛同している。

第二回 ~ Mist, 魔法アイテム強奪作戦に参加する ~

Theodore より 帝国 が運搬しているものの中にヒゲマークのアイテムがあるという情報が入り、強奪作戦を行うこととなった。砂漠の中の意味のなさそうな関所、洞窟街道、橋の上での戦闘を経

て、標的に追いつき、40号との戦闘となる。新しく手に入れた Long bow は結構役に立ったものの、今回 Mistral の活躍は今ひとつだった (1Lv 相当だったので仕方ないかも)。なお、深夜に襲ってきた腹ペコの熊の群れを説得、無駄な戦闘、殺生を避けることができた (Druid の徳がちょっと上がった)。Mistral が一度ぶっ倒れたのでそれなりにショックがあったようで、しばらくは無口になるかもしれない。

第三回 ~ Mist, 元王国軍兵士救出作戦に参加する ~

またもや Theodore より依頼があり、Great Pain 砂漠で強制労働させられている元王国軍兵士を救出してほしいとのこと。なかなか deadly になりそうだとの情報もあり、Mist は興味津々に参加する。らくだに乗ってぱっかぱっか旅をしておよそ 1 週間。道案内がいるという宿場町に到着した。何の問題もなく落ち合うことに成功し、砂漠へ入る。昼間に休み、夜に進むという基本どおりの進行をしていた一行だったが、なんとエンカウントしたのは Blue Dragon。プレスにより次々と傷をおう仲間たちと Mistral。しかし Mist は最後までノーダメージだった。(あれ? 私ってもしかして、相手にされてない?) サモンしたヒポグリフががんばってくれたので何とか倒せはしたが皆満身創痍だった。遺跡に到着した後はもうなんだか Blue Dragon に比べると軽い軽い。特に問題なくコボルとの一団を圧倒し元兵士たちを救出したのだった。今回の冒険で Mistral は2度もぶっ倒れた。もうこれ以上の傷を負わせたくないと思った Mist は、Mistral をお役目から開放することを決意した。新しいお供は Dire Bat の Haze。

第四回 ~ Mist, Dr Lucky と対峙する ~

はい、どーも。 Mist です。って、何で私が直接出張らなきゃいけない訳? あの PL、サボりにも程が.....ぶつぶつ.....

まあ、そんなことはどうでもいいとして、今回は散々だったわね。結構いい足が見つかったのはよかったけど、その御者がなんか L と意気投合しちゃって、カオス度が高まったっていうか、うん。 Dark Matter にぶった切られて Haze は死んじゃったし。まだ出会って一月もたってなかったって言うのに。また次のを呼べるっていても、呼吸が合う動物って、そうそういるもんじゃないしねえ。そして何より、あの忌まわしきネクロマンサー! ドラゴンの骨なんぞ連れて、私が呼び出した動物たちをことごとく粉碎しまくったりしおってからに! 同じ Summoner(いや、召喚を主にして戦うって意味でね) としてまったくの屈辱だったわ! 何なのよあの強さは。そもそも私が animal を連れてるから不利なんじゃないの? もういつそのこと次の Companion はいろいろと手を加えて、MK-? 量産型みたく改造.....もとい、特訓して強化すべきよね。undead になんか絶対負けてらんないわ!

あ、私はバイトがあるからこれで失礼するわね。次回はきっちり PL に仕事してもらわなきゃね。

第五回 ~ Mist, ツユシア上陸 ~

どーも、 Mist です。うふふ、なんかあの PL に「コメント書き大使」とかいう称号をもらっちゃった。なんかいい響きよね、「大使」。これからちゃんと仕事を.....、って、あれ? もしかして、上手いこと仕事を押し付けられてる?.....、あの PL、いつか殺す。

コホン、まあ、そんなことはいいとして。なんだかそろそろキャスターって Hp 大丈夫? みたいな不安を感じるようになった今日この頃。今回もだいたい痛い思いをしたわね。っていうか、むしろ死にかけたし。天井の低い屋内での戦闘だったから、お供の Mark(正式名称、Haze Mk-? 量産型)もなんだかやりにくそうだったし。号たちとの戦闘でも、なんだか狭い階段でつかえて、ほとんど参加しなかったし。はあ、やっぱり、Large Animalって、邪魔なだけなのかしら(乙女の悩み)。そうそう、なんだか最近 Summon ばかりしてるけど、Druid としてこれはどうなのかし

らね。多分、動物達と心を通じ合わせるには、もっと Companion を大事にしてあげないといけないと思うの。聞いた話だと、Beast Master とかいう、Companion のためのクラスがあるみたい。そっちにいてみようかしら。

それじゃ、バイトがあるから今日はこのくらいで。最近客が増えたのよね。なんでなのかしら。

第六回～ Mist、再びのオリジナル Dark matter と対峙～

ドーも、Mist です。くそぉ～、やると言ってしまったからには、文句は言えない……。あの PL、いつか殺す。

Elisos さんと再会。うーん、何回見ても、あの入って私のご先祖様よね。髪の色一緒だし。そんな Elisos さんに頼まれて、通称インコの森にいったんだけど、あのインコとかいう奴ら、やりにくいたらありゃしない。ま、Animal を使う私には関係のない奴らだから、後は他のキャスターに任せておけばって思ったのに、あの Fire ball……。危うく死ぬ所だったわよ。マジで。でも、今回は割と楽しめたかな。ジェリーさんに「鍵」なんて呼ばれちゃって。キャー、私って、主人公！？でもなんだか、最近周りの目が冷たい。「Chaotic だぁー」なんて言われたりして。そんなことないわ。私はれっきとした Lawful なのよ！誰も信じてくれないけど。とりあえず今回分かったことは、「キャスターも上手くすれば結構強い」ってことなのよね。うーん、純粋に強いというか、「悪事を働くこの者達に、裁きの雷を！ Call lightning！」とか何とか格好付けて呪文叫ぶって、おもしろかったりおもしろくなかったり。Grapple してる敵に Produce flame 投げ込むって、おもしろかったりおもしろくなかったり。そうそう、今回で Mark ともお別れになるのかな。次は Rinoceros あたりとお付き合いしてみようかなと思ってるの。

それじゃ、私はバイトにいかなくちゃ。あ、最後に一つだけ。あの PL が「ガルガンチュア怖い」とか言ってたけど、何のことかしらね。

第七回～ Mist、animal に対する慈愛を学ぶ～

ったく、いい加減この仕事私にやらせるんじゃないで自分でやりなさいっていうの……。なんか変なところに移ってきちゃったからまたバイト探さなきゃならないんだから……。

今回は、うん。調子に乗ってたわね。攻撃呪文を唱えるのはドルイドの仕事じゃないのよね。私は companion をアシストするのが本分よ。私は間違ってた。これは認めるしかないのわ。hp が 8 しか残ってない companion に nature's favor なんかかけてるもんじゃないわ。あうう……。ごめんね Veil(前の companion)。安らかに眠ってちょうだい。次は絶対にこんなミスはしないつもり。必ず守り通してみせる。

Elisos さーん。私たちは今ここにいますよー。Darkmatter との戦いのためにも、私たちに助力をお願いしまーす。

正直、私にとって帝国との戦いじゃなくて、Darkmatter との戦いっていう意味合いが強くなってきちゃった。

みんな元気かなー。バイトの常連さんたち。こっちでも、同じバイトが見つければいいけど。それじゃ、この辺で。

第八回～ Mist、Elisos との再会～

随分と寂れてるわね、この村だか町だかは。首長さんは結構なクレリックみたいだけど、なんだかバイトもなさそうなのよねえ。政府の要人なんかがお忍びで来るようなら、バイトする意味も大きいってもんなんだけど。

Glyptodon の 3 代目 Mistral(うう、初代のことが未だに忍ばれる)、なかなか素晴らしい活躍してくれたわね。Full Buff なら敵の攻撃は当たらないし hp は高いし、ダメージは DR で防ぐし。これだけ粘りのきく種なら、回復の弱い私でも後ろから補助が間に合うのよ。ありがたいことこの上ない

わ。

うう、Elisosさんに怒られちゃった。ま、毎日毎日スクライしてたらそら怒るわね。でもそれで、なんとか助力も取り付けられたし。うまくいった方よ。うん。

次は、どうしようかしら。……、全くもって気が乗らないんだけど、あのアマにでも、何か情報がないか聞いてみましようかね。あのアマ、今何してるのかしらね。それじゃ、今日はこの辺で。

第九回～ Mistの本体は実は Glyptodon だった！～

どーも、「Elf companion」こと、Mistです。……フーンだ、どうせ私は Glyptodon 大先生に buff を掛けるためだけに付いてきたオマケですよーだ(イジイジ)。

「Elf companion」、あながち間違っていないのよね。Glyptodon 大先生の方が堅いし太いし速いし damage 出るし party member の信頼も勝ち取ってるし……。ええ、知ってましたとも。Beast master になった時にそんなことは予想してましたとも。本来、もうそろそろ次のレベル帯の companion が来てもおかしくないんだけど、これじゃあ Glyptodon 大先生をお役目から解放するわけにもいかないのよね。だいたい、私の方が使えないんだから……(イジイジ)。

今回の反省点、というか、謝罪点があつてね。L 様、party attack してごめんなさい。この場を借りて謝ります。あの時は、そう、ちょっとばかし虫の居所が悪かったのよ。もうしないから。だからこれからも mage armor ちょうだい。Glyptodon 大先生のために、よろしくね。

なんだかこの場が愚痴とかそういうための場所になっちゃってる気がするけど、そんなことは気にせずに今日はこの辺で。

第十回～ Mist、海底への旅～

ちょっと、パパ！お尻触らないでよ！復活祝い？馬鹿なことやってんじゃないっての！ほらほら、あっち行く！

……お見苦しい所をすいませんでした。そんなわけで、パパ救出。……Astrite 持ってるくらいなんだから、捕まるなって言いたくなる今日この頃。相も変わらず Glyptodon 大先生の活躍はめざましいものがあるわね。full buff しないで、私が一緒に殴りにいけば 30damage くらいは結構出てたし。水中で活躍する大先生はちょっとかわいくもあり……。今回は、文句なしかな。ただ一つ、なんだか他の人に「この Brighter め」とかなんとか言われた気がするけど、私は決してあんな自然を愛さない悪い class はとってないんだからね。「びーすとますたー」をなめるんじゃないわよ。

そうそう、2代目 Mistral 復帰！わーい。これでまた一緒に旅ができるのね。これもどれも「びーすとますたー」なる class のおかげ。しかも魔法の鎖付けてるし。きっと何かとんでもない good job をしたのよね。さすが、一時的にでも私と旅をしてただけのことはあるってことで、またこっちで活躍してもらいましょうかね。大丈夫、きっとやってくれるはずよ。

また Dark matter をとり逃したのはとっても悔しいんだけど、今の時点じゃ壊しかたも分からないしねえ。これといって情報もないし、どうしたものかしら。あ、そうそう。パパ、あのベルト、もらってくから。Dark matter との戦いでは、絶対に Astrite 製のものが必要になるはずなのよ。これで私も、少しは戦力になれるってものよね。

第十一回～ Glyptodon 大先生、死す！～

ちょっと、パパ！お尻触らないでって言うてるでしょ！打倒 Aspect 祝い？何ご都合主義なことやってんの！また帝国に捕まりおってからに。ちょっと家で静かにしてなさい！

……再びお見苦しい所をすいませんでした。そして大先生、Mistral、私が丁寧に弔ってあげるから、安らかに眠ってちょうだい。Mistral は、さすがにまずかったわね。この lv になって、13hp は

全くもって太刀打ちできないのよね。それこそ Dog riding じゃなくて、owl とかにして偵察用にするとか、そんな程度なのかしら。……べ、別に「びーすとますたー」が弱いとか言ってるんじゃないんだからねっ！「あんな class は 11v しかとらない」って言われて傷ついてたりなんかしないんだからねっ！

そして Elisos さん、いいえ、ひいおばあちゃん。助けに行くのが遅くなってしまっでごめんなさい。でも、その遺志は確かに私が引き継ぎました。Dark matter は、必ず上の Elf の名にかけて全て破壊します。仲間もいるし、絶対にできるはず。ひいおばあちゃんの装備、もらっていくね。死者に要求をするのはよくないけど、私には必要なの。力を貸してちょうだい。

アルミー————ス！か、かわいっ！そしてなんて intelligent なの！animal らしくないとはいえませんが、magic item の力によるものだから無問題！私の companion になってくれたのは本当に嬉しいことだけど、クエリスさんを助けられなかったのは、申し訳なかったわ。力不足だった。(そしてお金不足だった)もっと早く行けていればよかったのだけど。

なんとか儀式だけは阻止できたみたい。これからきっと私達の逆襲が始まるのよ！そして最後には Original nine を全て破壊する！きっとそうよ！

裏設定 (この設定はセッションに影響しません)

Mist はネクロマンシーの才を持っている。しかし本人はネクロマンシーを割と嫌っていて、今の時点でそのことに気付いてもないし、たとえ分かっても使う気は起きないであろう。

初代 Mistral の魂が Mist および 2 代目 Mistral の守護霊として憑いている。

Haze はなぜか Astrite 製の物を嫌う。

あ、不都合があったら言ってください。 赤の言

生い立ち完全版 (何)

今から 400 年ほど前、上のエルフ達がドラウと激しい戦闘を繰り返していた頃、一人の上のエルフ (Fog Florentio) が死亡してしまった。しかしながら、その遺体は埋葬されることはなかった。ドラウ達はその遺体を持ち帰り、undead として使うことにしたのだ。長きにわたる戦争が終結したとき、Fog はまだ undead としてさまよっていた。

それから約 230 年、今から 170 年ほど前になるが、ある冒険者の一団が一体の undead を倒す。そのときたまたま高レベルのクレリックがいたこと、その undead はもともとエルフだということが分かったことから、True Resurrection で蘇らせることにした。こうして Fog はこの世に蘇ることになった。しかしながら、undead になっていた時間が長かったことで、Fog はその記憶のほとんどを失っていた。唯一覚えていたのはその名前のみ。Fog を蘇らせた冒険者の一団は不憫に思い、Fog を Whity Forest へと連れて行った。

今から 138 年前、Fog の子として Mist は生まれた。母は普通のエルフ、父は過去の記憶がないということで、Mist も普通のエルフとして育てられた。しかしながらその体には、確かに上のエルフの血が濃く流れているのである。これによって、Mist は、その他のエルフと違い、Original Darkmattar の封印を解くために、封印の樹に血をかける必要がなく、近くに寄るだけでいいのだ。

また、Fog が undead であった経験を持っているせいか、Mist は undead を扱うこと、あるいは自分自身が undead になることに対して特別な才能を持つ。

- ・ Plum Audrey (プラム・オードリー)
- ・ 187 歳、Elf の女性
- ・ Druid20 くらい (50 年ほど前) で、Mist の師匠
- ・ Mist よりはお柄だが、ぽっちゃり系。それ以外は普通。

Mist の師匠で、Mist に Druid の何たるかをレクチャーした人物。

とてつもない自信家で、「ガルガンチュア？ そんなの敵じゃないわよ」と言っただけ。しかしながら、実力が伴う。Alignment が CG のため、Mist とはよくけんかする。Mist が友人に「あのアマ……」などと愚痴をこぼす姿がよく目撃されていた。

Companion は Triceratops の Pepper。Plum は Pepper を溺愛していて、口癖のように「うちの Pepper ちゃんは……」と言っただけでそれ以降約 2 時間の自慢に入るのである。

現在の所在は不明だが、Whity Forest の復興に手を貸したりしているあたり、案外近くで Mist のことを見守っているのかもしれない。